

提言書（案）概要

1 問題の所在

- ・特定の世代の、社会教育活動への参加率の低さ
⇒世代をこえたつながりが形成できていない

2 富士見市の生涯学習

- ・富士見市の生涯学習
⇒「市民一人ひとりが、安心して生活し、行政との協働のもとで、いつでも、どこでも、いつまでも自発的に学習をすすめ、そのことを通して、すべての市民が互いを尊重し、心豊かに暮らせるまちづくりの実現を目指す」

3 問題の再考

- ・富士見市が掲げる生涯学習にかかわる基本理念を達成するためには、
 - (1) 個人の生涯学習活動を推進すること
 - (2) 人々の間につながりを形成することが必要
⇒人と人との間につながりを形成することが重要
- ・富士見市の計画では(2)について
 - (ア)「学習成果の発表機会の充実」
 - (イ) 学習成果の活用機会の創出
 - (ウ) 市民間交流の促進
 - (エ) 生涯学習を通じたまちづくりの推進を柱として取り組むこととしている
- ・しかし、そもそも学習することや他者とのつながりを形成することに対して、動機やニーズが希薄

4 社会教育の役割

- ・生涯学習は個人による自発的な学習。それだけでは「心豊かに暮らせるまちづくり」の実現は難しい
- ・市民一人ひとりが生涯学習活動に励んで個人として成長し、そして他者とのつながりを形成し社会となり、互いに学び合い、支え合う社会を築いていく必要がある
- ・社会教育とは、人々の生涯学習を支援する、その一環。社会教育とは、学習主体者以外の者による、意図的な働きかけ
- ・人と人との間につながりを形成するためには、行政としても組織的に意図的な

働きかけを行うことが必要である。

5 具体的な取組の提案

- ・時代に合わせた、参加へのハードルを下げられるようなシステムづくり
- ・地域と学校、保護者がうまくつながれるようなシステムづくり